

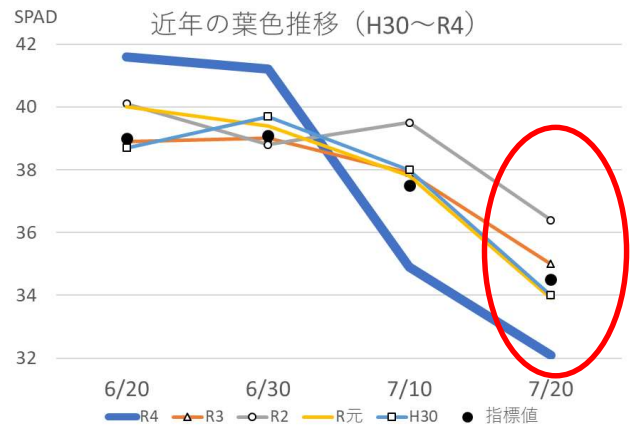
## 近年になく、葉色が急低下！ 後期栄養確保のため、穂肥と水はしっかりと！

【7月20日生育状況】（3か所平均）

平均 田植日	草丈(cm)		茎数(本/m <sup>2</sup> )		葉数(葉)		葉色(SPAD)	
	本年	指標値比	本年	指標値比	本年	指標値差	本年	指標値差
5月19日	79	105%	453	110%	12.0	+0.1	32.1	-2.4

○指標値比較【草丈：やや長い 茎数：多い 葉数：並 葉色：淡い】

- ・葉色は前回調査に引き続き低下しており、栄養凋落が懸念される（前回調査-2.8）。
- ・向こう1か月（7/16~8/15）の平均気温は、高い確率50%であるため（新潟地方気象台7月14日発表）、葉色の低下に注意し、穂肥と水管理で葉色の維持・回復に努める。



【今後の管理のポイント】

### 1 コシヒカリの穂肥施用

～出穂期は平年より「1日程度」早まる予想～

(1) 分施の場合

- ・葉色は全般に急激にさめており、早急に1回目穂肥（窒素成分1.0~1.5kg/10a）を施用する。（草丈が長い場合も、ムラ直し程度に施用。）
- ・2回目穂肥は、出穂10日前に確実に施用する（窒素成分1.0~1.5kg/10a）。（ただし、1回目穂肥を遅らせて施用した場合は1回目の1週間後に施用）

(2) 基肥一発の場合

- ・窒素成分の発現を促すため、飽水管理を徹底する。
- ・葉色の低下がみられ、出穂期の葉色がSPAD値32~33を下回ると予想される場合は出穂期10日前までに追加穂肥を施用する。

(3) 出穂期予想と2回目穂肥時期のめやす（7月20日現在）※ 5/20~5/25 植えの予想

出穂期は気象条件により前後する可能性があるため、必ず各ほ場の幼穂確認を行い穂肥を施用

予想出穂期	2回目穂肥時期（出穂10日前）	窒素成分(kg/10a)
8月4日	7月25日	1.0~1.5

### 2 こまめな水管理で稲体活力維持

- (1) 飽水管理を実施し、土壌からの窒素供給を図り、葉色の維持に努める。
- (2) 異常高温やフェーン時には湛水し、稲体の急激な水分不足を防止する。

### 3 病害虫防除の徹底

- (1) 葉色の濃いところを中心に葉いもちの早期発見に努める。
- (2) 斑点米カメムシ類防除のため、農道・畦畔の草刈りや水田内雑草の除去を徹底する。